

平成22年度

事業報告書

自 平成22年4月 1日
至 平成23年3月31日

財団法人日本科学協会

目 次

第1 一般概要

第2 事業の状況

- 「一般市民等への学習支援体制の充実」事業
- 「科学実験事例データベースの公開」事業
- 「体感型実験装置群による巡回展の開催」事業
- 「社会の変化に対応した事業化研究」事業
- 「時空間表現を駆使した地球科学の可視化開発」事業
- 「教育・研究図書有効活用プロジェクト」事業
- 「海洋・船舶科学研究助成」事業
- 「科学振興のための研究助成」事業
- 「研究助成の推進」事業
- 「研究成果発表促進のための助成」事業
- 「調査研究船を使用した海洋科学体験学習の開催」事業
- 「笹川科学研究助成の活性化研究」事業

第3 処務の概要

1. 役員等に関する事項
2. 会議等に関する事項
3. 許可、認可、承認、証明等に関する事項
4. 契約に関する事項
5. 寄付金に関する事項
6. 主務官庁からの連絡事項等
7. 申請・届出等事項
8. その他

平成22年度事業報告書

第1 一般概要

科学・技術の振興には、産官学による研究投資、研究者の育成を積極的に推進していくことのほか、広く国民一般の科学的素養の醸成が必須である。また、国際協調の基盤の強化には、科学・技術・文化の交流の積み重ねが従来に増して必要となった。

本会はこのような情勢を踏まえ、平成22年度事業実施にあたっては、監督官庁の指導のもと、ボートレース公益資金による日本財団の助成金を受けて、以下の目的を達成することに努めた。

1. 科学・技術に関する若手人材の育成、研究の全国的な掘り起こしを図るため、科学研究助成を行い、科学・技術の振興に寄与し、さらに研究助成を受けた研究者の研究活動の展開を期するため、その研究成果発表を支援し、学術成果の広範な浸透・普及の促進を図った。
2. 研究船利用による海上及び陸上の体験学習となる実践研修を行い、海洋科学の理解と啓発により次代の海洋科学を担う人材育成を図った。
3. 身近で日常的な話題をテーマにして開発・製作した体感型の実験装置群による展示会を全国各地で実施し、科学の学習が驚きや感動を伴う魅力的なものであることを伝え、科学の振興に寄与した。
4. 日本で収集した教育・研究図書を中国の大学・研究機関に寄贈し、国際的な学術振興を促進するとともに、「作文コンクール」及び「日本招聘プログラム」を合わせて実施することにより、日本と中国における国際相互理解の促進と国際友好意識の発揚に寄与した。
5. モーターボート競走法制定記念科学・文化振興基金による事業として、青少年に科学・技術の楽しさに触れる活動と、情報技術を利用した学習のあり方などを視野に入れた事業を行い、広く科学的素養の育成に寄与した。

なお、事業の推進にあっては、業務体制の充実を図るとともに、一層の効率的かつ、適切な事業の運営に取り組み、もって本会の目的の達成に努めた。

第2 事業の状況

1. 科学技術の開発及び普及（寄附行為第5条第3号）

(1) 「一般市民等への学習支援体制の充実」事業

本事業は、モーターボート競走法制定を記念して、ボートレース関係団体からの拠出金により設けた科学・文化振興基金の運用利息をもって実施したものである。

① 内容

科学館等での巡回展向け体感型実験装置群の開発・製作及び巡回展の開催準備等を専門家の協力を得て実施した。

イ. 体感型実験装置群の開発及び製作

(イ) 研究会の開催

「体感型実験装置群の開発と製作」研究会（1回開催）

(ロ) 分科会の開催

「光」分科会（16回開催）

・テーマは、「光」

「材料化学」分科会の開催（分科会8回、化学部会2回、数物部会18回開催）

・テーマは、「携帯電話」

(ハ) 「光」の体感型実験装置群の完成発表展示会の開催

㊦ タイトル：“光の謎を解き明かせ！”

㊧ 共催：財団法人日本海事科学振興財団（船の科学館）

㊨ 協力：一般社団法人日本気象予報士会、全国科学博物館協議会、日本財団

㊩ 開催場所：船の科学館 1階オーロラホール

東京都品川区東八潮 3-1

㊪ 開催日時：平成22年9月10日～26日（休館日 9月13日、21日）

㊫ 展示内容：光を科学する実験装置全12機種

ロ. 体感型実験装置群による巡回展の開催

日本財団助成事業である体感型実験装置群による巡回展の開催（テーマ「自然界の水“台風がやってきた！”」）に必要な準備と装置管理を行った。

(イ) 準備

台湾での特別展開催準備

(ロ) 装置管理

装置群の保管及び動産保険の付保

② 事業成果

全国各地で行われる科学イベントにより、小・中学生への支援の途は拓かれてきたものの、一般市民や高校生レベルを視野に入れた活動は、未だ見受けられないのが実情である。

このような状況の中、本会では、「一般市民等への学習支援体制の充実」事業において、科学館博物館に無償貸出する体感型実験装置群の開発・製作等を行ったことは、広く市民の科学的素養の育成に寄与するものである。

(2) 「科学実験事例データベースの公開」事業

本事業は、モーターボート競走法制定を記念して、ボートレース関係団体からの拠出金により設けた科学・文化振興基金の運用利息をもって実施したものである。

① 内容

広く世界で活用されている伝承的な実験から最近開発されたユニークな実験まで様々な科学実験事例を収集網羅し、これに実験内容や方法のほか、分野、対象年齢、難易度などの検索項目を設けたデータベースをホームページ上で広く公開した。

イ. 委託先

兵庫教育大学原体験教育研究会

ロ. 内容

データベース (638 事例)

原体験コラム (105 タイトル)

自然の形と知恵 (120 タイトル)

② 事業成果

本年度は、科学実験の情報収集や、学校の授業の材料の為などの理由から約45万件のアクセス数があり、また会員も約300件の登録があり、広く科学・技術の学習の普及に寄与した。

(3) 「体感型実験装置群による巡回展の開催」事業

本事業は、ボートレース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施したものである。

① 内容

本会で開発・製作した体感型実験装置群 (以下「装置群」という) を用いて、次のとおり全国の科学館等を対象に展示会を実施した。

イ. 展示タイトル

自然界の水「台風がやってきた！」

ロ. 展示内容

全8実験アイテム(解説ボード付) 13機種14装置

(イ) 台風の科学1 水とは何か・大気中の水の姿

水の分子模型	彩雲発生装置	光環発生装置
雪浮遊実験装置	雨粒浮遊実験装置	潜熱実験キット2種

(ロ) 台風の科学2 台風の渦の形成・自転する地球と大気の運動

台風実体モデル	角運動量保存則体感装置
コリオリの力観察装置	地球の自転

(ハ) 台風の科学3 台風がもたらすもの

気圧体感装置	風波発生装置
--------	--------

ハ. 開催場所、開催期間(含開催日数)及び来場者数

全5館

(イ) 道の駅「富士川楽座」(静岡県富士市)

2010年4月1日～2010年4月4日

なお、道の駅「富士川楽座」は、2010年2月26日から開催した。

(通算で35日間/9,367人)

(ロ) 福岡県青少年科学館(福岡県久留米市)

2010年4月17日～5月16日(30日間/10,374人)

(ハ) 富山市科学博物館(富山県富山市)

2010年7月17日～9月5日(51日間/17,692人)

(ニ) 日立ビックセンター科学館(茨城県日立市)

2010年12月1日～2011年1月10日(32日間/3,651人)

(ホ) わくわくグランディ科学ランド(栃木県宇都宮市)

2011年3月19日～4月10日(当初開催予定期間)

なお、わくわくグランディ科学ランドは、震災のため開催中止となった。

ニ. 普及活動

各開催館におけるマスコミ等の報道を通じて、社会一般に科学の理解と啓発を行った。

② 事業成果

本事業では、装置群による巡回展示を日本各地で行うことにより、科学の魅力と学習する楽しさを国民各層一人でも多くの人々に伝え、科学(理科)離れする現代の流れに抗して、科学への認識を改めさせるとともに、この巡回展を通して、科学の重要性を広く一般に周知した。

(4) 「社会の変化に対応した事業化研究」事業

① 内容

イ. 学術に関する若者向け Web ジャーナルの発行

学術的なテーマを中心に Web を活用した若者向け学術情報の発信に向けて、全体の構成および公開する内容を検討した。

ロ. 学術専門家の教育支援モデルの開発

モデル事業共催候補の各地の自治体・教育委員会等との協議を行った。

(5) 「時空間表現を駆使した地球科学の可視化開発」事業

① 内容

インターネットを通じた正しい科学知識の普及及び啓発のため、気象と海洋をテーマにした企画・編集会議を開催し公開する「科学読物」の検討を行った。

イ. 企画会議

(イ) 「気象物語」(13回開催)

気象システムの理解の手段として“空想気象学”を提案し、“もしも地球が立方体だったら”という架空の条件下で、地球がどのような状態に変化するかを紹介する映像の前篇の制作に着手した。

(ロ) 「海物語」

駿河湾とその比較モデルである富山湾について、地形データを集積し、詳細な海底地形図を作成した。

② 事業成果

テーマごとの企画・編集会議を経て公開内容の検討を行うことにより、気象及び海洋に関する科学知の集積と従来になかった新しい「気象学」の構築に資した。

2. 科学情報・資料の収集・保管及び貸出し（寄附行為第5条第4号）

(1) 「教育・研究図書有効活用プロジェクト」事業

本事業は、ポートレース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施したものである。

① 内 容

イ. 図書の寄贈

国際理解の深化と友好親善の促進に貢献することを目的に、日本の図書を中国の大学・研究機関等へ寄贈した。

(イ) 図書の収集・寄贈

日本国内において出版社、図書館、企業、大学・研究機関等及び個人への図書提供依頼を経て図書を収集し、寄贈先の教育・研究分野、地域性、蔵書内容等を考慮して策定した「図書寄贈方針」に基づき各大学・研究機関への寄贈図書を選定後、中国の各大学・研究機関へ図書を寄贈した。

① 図書収集冊数 約164,000冊（延べ360件）

② 図書寄贈冊数 249,334冊

[別表（1）平成22年度大学別図書寄贈実績一覧表]

(ロ) 寄贈先の拡張

次の大学を寄贈対象に追加し、寄贈先を28大学・1研究機関に拡張した。

① 追加日 平成22年7月22日（覚書締結）

② 追加大学 内蒙古大学

ロ. 笹川杯作文コンクール2010「感知日本」の開催

中国の中国青年報社及び人民中国雑誌社との共催により、中国全土の青年層を対象に作文コンクールを開催した。

(イ) 「笹川杯作文コンクール」(中国語版)

① 実 施 中国青年報社

② 応募作品数 5,877点

③ 最優秀作品 6点

(ロ) 「笹川杯作文コンクール」(日本語版)

① 実 施 人民中国雑誌社

② 応募作品数 1,455点

③ 最優秀作品 2点

ハ. 図書館担当者等の日本招聘プログラムの実施

図書寄贈先の図書館担当者の資質向上と対日理解の深化を目的に、セミナーや訪問見学などの研修プログラムを実施した。

(イ) 実施時期 平成23年2月15日～22日（8日間）

(ロ) 招聘対象者 図書寄贈対象大学の図書館担当者等24名並びに図書寄贈の南北中継大学

の担当者2名（合計26名）

ニ. 作文コンクール優勝者等の日本招聘プログラムの実施

将来を担う日中の若者の相互理解と友好を深めることを目的に、人的交流や訪問見学などの実体験を盛り込んだプログラムを実施した。

(イ) 実施時期 平成23年2月15日～22日（8日間）

(ロ) 招聘対象者 「作文コンクール」優勝者等10名

ホ. 「笹川杯作文コンクール - 感知日本 -」優秀作品集の出版

中国における対日関心の喚起、対日理解の促進、「コンクール」の周知等を図るため、2008年度、2009年度の優秀作品集を日中対訳で出版し、日中両国で配布した。

(イ) 編集・出版 中国青年報、日本科学協会、人民中国雑誌社

(ロ) 発行部数 5,000部

ヘ. 笹川杯日本知識クイズ大会2010の延期

平成22年11月、中国の3地域で開催予定であった「クイズ大会」について、当面の日中情勢を考慮して本年度内の開催を見送り、平成23年4月に延期することとした。

② 事業成果

日本で収集した図書を中国の大学・研究機関に対して年度合計で248,334（平成11年度からの累計2,584,752）冊寄贈し、日本の学術情報・資料のグローバルな活用を図ることにより、国際的な学術振興を促進するとともに、「作文コンクール」及び「日本招聘プログラム」を合わせて実施することにより、日本と中国における国際相互理解の促進と国際友好意識の発揚に寄与した。

3. 科学研究並びに研究の奨励及び助成（寄附行為第5条第5号）

(1) 「海洋・船舶科学研究助成」事業

本事業は、ポートルース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施したものである。

① 内 容

イ. 海洋・船舶科学研究助成

(イ) 名 称 笹川科学研究助成

(ロ) 対象領域 「海洋学および海洋関連科学」ならびに「船舶および船舶関連科学」で、その成果が海洋・船舶関係に直結する研究（人文・社会科学を含む）

(ハ) 申請資格 大学院生あるいは大学等の所属機関で研究活動に従事する者であって、35才以下の者（外国人留学生を含む）

(ニ) 助成件数 50件

[別表（2）平成22年度笹川科学研究助成（海洋・船舶科学研究）対象者一覧表]

(ホ) 助成金額 29,969,527円（1件平均 611,623円）

ロ. 助成研究者の奨励

(イ) 「研究奨励の会」の開催

平成22年4月27日に、ANAインターコンチネンタルホテル東京において、「平成22年度研究奨励の会」を開催し、笹川科学研究助成交付決定通知書を手交した。

(ロ) 笹川科学研究奨励賞の表彰

「平成22年度研究奨励の会」において、平成21年度笹川科学研究奨励賞の受賞者の表彰を行った。

② 事業成果

本事業は、海洋生物・海洋資源・海洋環境をはじめ海上輸送など海洋・船舶関係全般にわたる萌芽性、新規性または独創性のある研究を奨励し、あわせて海洋・船舶科学の将来を担う若手研究者を育成することにより、海洋・船舶科学振興に寄与した。

(2) 「科学振興のための研究助成」事業

本事業は、ポートレース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施したものである。

① 内 容

イ. 科学振興のための研究助成

(イ) 名 称 笹川科学研究助成

(ロ) 対象領域

- ① 「一般科学研究」 人文・社会科学および自然科学（ただし、医学を除く）
- ② 「実践研究」 現場で抱える諸問題解決のため、あるいは新たな指導方法導入のための事例研究や開発研究等、その成果を現場に活かすとともに、現場を通して広くその分野の活性化・発展に貢献することを目的とする研究

(ハ) 申請資格

- ① 「一般科学研究」 大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、35才以下の者（外国人留学生を含む）
- ② 「実践研究」 現場で専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、スクールカウンセラー、指導員等）

(ニ) 助成件数

- ① 「一般科学研究」 251件
 - 人文・社会系 36件 数物・工学系 30件 化学系 45件
 - 生物系 97件 複合系 43件
- ② 「実践研究」 33件

[別表(3)平成22年度笹川科学研究助成(一般科学研究/実践研究)対象者一覧表]

(ホ) 助成金額

- ① 「一般科学研究」 146,473,108円（1件平均 583,558円）
- ② 「実践研究」 9,523,359円（1件平均 297,605円）

ロ. 助成研究者の奨励

(イ) 「研究奨励の会」の開催

平成22年4月27日に、ANAインターコンチネンタルホテル東京において、「平成22年度研究奨励の会」を開催し、笹川科学研究助成交付決定通知書を手交した。

(ロ) 笹川科学研究奨励賞の表彰

「平成22年度研究奨励の会」において、平成21年度笹川科学研究奨励賞の受賞者の表彰を行った。

② 事業成果

本事業は、他から研究助成が受け難く、萌芽性、新規性または独創性のある研究を奨励し、あわせて科学研究の将来を担う研究者を育成することにより、科学振興に寄与した。

(3) 「研究助成の推進」事業

本事業は、ポートルース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施したものである。

① 内容

イ. 平成23年度笹川科学研究助成計画原案の作成

(イ) 募集計画策定等

募集要項の作成および選考方針については笹川科学研究助成事業委員会において、また、選考基準や選考細則については笹川科学研究助成領域別選考委員会の議を得て策定した。

(ロ) 公募

大学、研究機関、学会等約500箇所および博物館、図書館等約400箇所に募集のためのメール配信を行い、広く周知した。

① 募集期間 平成22年10月1日～平成22年10月15日

② 応募件数 1,301件の研究計画の申請を受付した。

(一般科学研究および実践研究 1,172件、海洋・船舶科学研究 129件)

(ハ) 助成計画原案の作成

笹川科学研究助成領域別選考委員会での審査選考を経て、平成23年度笹川科学研究助成計画原案を作成した。

ロ. 平成21年度笹川科学研究助成の研究報告書の整備

ハ. 研究助成実績資料の整備

② 事業成果

本事業は、「科学振興のための研究助成」および「海洋・船舶科学研究助成」事業の円滑な運営に供するため、平成22年度中に公募および審査選考などを行い、平成23年度における計画原案を策定し、もって事業目的の達成に寄与した。

(4) 「研究成果発表促進のための助成」事業

本事業は、ポートルース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施したものである。

① 内 容

イ. 研究成果発表促進のための助成

- (イ) 名 称 海外発表促進助成
- (ロ) 申請資格 笹川科学研究助成を受けた者
- (ハ) 実施内容

① 平成22年度「海外発表促進助成」

- イ) 助成件数 71件 (外国人研究者を含む)

[別表(4) 平成22年度海外発表促進助成対象者一覧表]

- ロ) 助成金額 12,885,303円

② 平成23年度「海外発表促進助成」の募集案内および第1期助成計画策定

ロ. 学会情報データベースの構築

平成22年度における助成者のデータをもとに学会情報データベースを構築し、本会のWebサイトの一部として公開した。

② 事業成果

本事業は、本会が行う笹川科学研究助成を受けた研究者の研究活動のより積極的な展開を促し、その成果を社会に普及させるため、その研究発表を支援することにより、学術成果の広範な浸透および普及の促進を図り、学術振興に寄与した。

(5) 「調査研究船を使用した海洋科学体験学習の開催」事業

本事業は、ポートルース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施したものである。

① 内 容

イ. 催事名

研究船で海を学ぼう

ロ. 実施時期

平成22年8月2日～8月8日

ハ. 場 所

- (イ) 東京ファッションタウンビル研修室 (東京都江東区)
- (ロ) 東海大学・清水校舎 (静岡県静岡市)
- (ハ) 三保研修館 (静岡県静岡市)
- (ニ) 清水ふれあいホール (静岡県静岡市)
- (ホ) 望星丸 (東海大学海洋調査研修船)

ニ. 参加者（研修修了者）

高校生 66名・学校教諭等 14名

ホ. 募集・選考

主に高校生を対象に、海に関わる作文を広く全国から公募し、その優秀者を招聘。

ヘ. 研修内容

参加者は初日に海洋学と海洋調査法の講義を受け、翌日より東京湾～黒潮流域～駿河湾における2泊3日の航海の中で採水、採泥、プランクトン採取などの海洋観測を行い、帰港後の2日間で、研究室にて採取した試料やデータを分析・考察し、その成果を発表。

ト. 共催者等

(イ) 共催

東海大学、日本海洋学会

(ロ) 後援

文部科学省、国土交通省、農林水産省、静岡県教育委員会、愛知県教育委員会、静岡市教育委員会ほか海洋関連団体2団体及び報道機関6社

(ハ) 特別協賛

日本財団

チ. 同行乗船者

韓国から次の3名を招聘し、海洋科学体験学習について意見交換を行った。

(イ) 金炯碩 (Kim, Hyung-Seok) 氏

釜慶大學校 海洋生産 System 管理學部 副教授

(ロ) 金斑昌 (Kim, Jeong-Chang) 氏

釜慶大學校 水産科學大學 教授

(ハ) 尹成哲 (Yoon, Sung-Cheol) 氏

(社) 海洋産業發展協議會 事務總長

リ. 普及活動

マスコミによる報道を通し、社会一般に海洋科学の理解と啓発を行った。

② 事業成果

本事業では、次代を担う優れた高校生を対象に海洋研究船による実習研修を通して、海洋科学の重要性に理解を示すオピニオンリーダーを養成するとともに、この活動を通して、海洋研究の必要性を広く一般に周知した。

(6) 「笹川科学研究助成の活性化研究」事業

① 内 容

イ. 笹川科学研究助成のフォローアップ支援

(イ) 名 称 外国人研究者訪日支援

(ロ) 実施内容 笹川科学研究助成を受けた外国人研究者を対象に、日本の研究機関へ招聘し、研究の完結に向けた支援を行った。

(ハ) 支援対象 2件

① 氏名：Ni Wayan Kurniani Karja／所属：ボゴール農業大学獣医学部講師

研究課題：野生動物への活用を目指した発育途上卵子の体外発育培養システムの開発

支援期間：89日間

② 氏名：Ranjan Kumar Dahal／所属：トリバハン大学講師

研究課題：地形応力の視点に基づく降雨と地震による大規模地すべりの評価方法の

研究／支援期間：121日間

② 事業成果

本事業は、海外発表促進助成の対象とならない外国人研究者2名の日本での研究活動を試験的に支援したところ、高い実効性があり今後の笹川科学研究助成事業体系の構築に資した。

第3 処務の概要

1. 役員等に関する事項

(平成23年3月31日現在)

役職	常勤・非常勤	氏名	就任(重任)年月日	担当職務	現職(専門分野)	備考
会長	非常勤	大島 美恵子	平成21年4月1日	業務の議決・執行	東北公益文科大学名誉教授(生物化学)	
常務理事	常勤	伊藤 隆	平成22年4月1日	会長補佐・日常業務の執行	財団法人日本科学協会常務理事(公益法人業務)	
理事	非常勤	跡見 順子	平成22年4月1日	業務の議決・執行	東京大学名誉教授 東京大学アイソトープ総合センター特任研究員 (運動生命科学、細胞生物学、脳神経科学、宇宙生物学、体育学)	
同	非常勤	飯島 茂	平成22年4月1日	業務の議決・執行	東京工業大学名誉教授(社会人類学、民族学)	
同	非常勤	伊理 正夫	平成22年4月1日	業務の議決・執行	東京大学名誉教授(応用物理学、工学基礎)	
同	非常勤	金子 務	平成22年4月1日	業務の議決・執行	大阪府立大学名誉教授 国際日本文化研究センター共同研究員 (科学技術史、比較文化論)	
同	非常勤	川口 春馬	平成22年4月1日	業務の議決・執行	慶應義塾大学名誉教授 神奈川大学特任教授 (工学、応用化学、高分子合成)	
同	非常勤	木村 龍治	平成22年4月1日	業務の議決・執行	東京大学名誉教授 放送大学客員教授 (気象、海洋、陸水学)	
同	非常勤	膳 昭之助	平成22年4月1日	業務の議決・執行	北里大学名誉教授(薬学、生物有機化学)	
同	非常勤	高橋 正征	平成21年4月1日	業務の議決・執行	東京大学名誉教授 高知大学名誉教授(生態学)	
同	非常勤	竹内 啓	平成22年4月1日	業務の議決・執行	東京大学名誉教授 明治学院大学名誉教授 (統計学、計量経済学、数理統計学、日本経済論、近代社会論、科学技術論)	
同	非常勤	中川 八洋	平成22年4月1日	業務の議決・執行	筑波大学名誉教授 (国際政治学、政治哲学、憲法思想)	
同	非常勤	梅干野 晁	平成21年4月1日	業務の議決・執行	東京工業大学大学院教授(都市建築環境工学)	

(平成23年3月31日現在)

役職	常勤・非常勤	氏名	就任 (重任) 年月日	担当職務	現職 (専門分野)	備考
理事	非常勤	山田 卓三	平成22年 4月1日	業務の議決 ・執行	兵庫教育大学名誉教授 名古屋芸術大学名誉教授 (生物学)	
同	非常勤	湯浅 浩史	平成21年 4月1日	業務の議決 ・執行	東京農業大学教授 (財)進化生物学研究所主任研究員 (農学、細胞遺伝学、民族植物学)	
同	非常勤	和崎 春日	平成22年 4月1日	業務の議決 ・執行	中部大学教授 (文化人類学)	
同	非常勤	渡部 昇一	平成22年 4月1日	業務の議決 ・執行	上智大学名誉教授 (英語学、言語学)	
監事	非常勤	坂本 眞輔	平成22年 4月1日	業務執行等の 監査	元(財)日本モーターボート競走 会理事	
同	非常勤	西本 克己	平成22年 4月1日	業務執行等の 監査	(株)東京ビー・エム・シー代表取 締役社長	
評議員	非常勤	青島 勉	平成22年 4月1日	業務の助言等	亜細亜大学・亜細亜大学短期大 学部総合企画部長 (学術情報)	
同	非常勤	安達 修子	平成22年 4月1日	業務の助言等	(財)自然史科学研究所主任研究員 (古生物学)	
同	非常勤	一國 雅巳	平成21年 4月1日	業務の助言等	東京工業大学名誉教授 (地球化学)	
同	非常勤	今里 智晃	平成22年 4月1日	業務の助言等	広島大学大学院教授 広島大学キャリアセンター セ ンター長 (辞書学)	
同	非常勤	宇多 高明	平成21年 4月1日	業務の助言等	(財)土木研究センター常務理事 (河川海岸工学)	
同	非常勤	餌取 章男	平成22年 4月1日	業務の助言等	(独)物質・材料研究機構広報ア ドバイザー (科学一般、科学ジャーナリズム)	
同	非常勤	大熊 孝	平成21年 4月1日	業務の助言等	新潟大学名誉教授 NPO法人新潟水辺の会代表世 話人 (土木工学)	
同	非常勤	太田 陽子	平成22年 4月1日	業務の助言等	横浜国立大学名誉教授 国立台湾大学特別教授 (自然地理、地形学)	
同	非常勤	大原 雅	平成22年 4月1日	業務の助言等	北海道大学大学院教授 (植物生態学、生態保全学)	

(平成23年3月31日現在)

役職	常勤・非常勤	氏名	就任 (重任) 年月日	担当職務	現職 (専門分野)	備考
評議員	非常勤	大堀 哲	平成21年 4月1日	業務の助言等	長崎歴史文化博物館館長 (社会教育学、博物館学、生涯教育学)	
同	非常勤	沖野 外輝夫	平成22年 4月1日	業務の助言等	信州大学名誉教授 (理学、環境科学、環境動態解析)	
同	非常勤	奥谷 喬司	平成22年 4月1日	業務の助言等	東京水産大学名誉教授 (海洋動物学、軟体動物学)	
同	非常勤	奥野 花代子	平成22年 4月1日	業務の助言等	元神奈川県立生命の星・地球博物館専門学芸員 (博物館学)	
同	非常勤	梶 英輔	平成22年 4月1日	業務の助言等	北里大学名誉教授 (薬学、医薬品化学)	
同	非常勤	門野 泉	平成22年 4月1日	業務の助言等	清泉女子大学学長 (英国ルネッサンス演劇、比較演劇学)	
同	非常勤	茅根 創	平成22年 4月1日	業務の助言等	東京大学大学院教授 (地球科学、地理学)	
同	非常勤	川口 邦雄	平成22年 4月1日	業務の助言等	写真作家 日本山岳写真協会名誉会長 (社)日本写真家協会 (自然写真記録)	
同	非常勤	川澄 哲夫	平成22年 4月1日	業務の助言等	元慶應義塾大学教授 (洋学史、幕末の日米関係)	
同	非常勤	菊竹 清訓	平成22年 4月1日	業務の助言等	(株)菊竹清訓建築設計事務所代表 (社)日本建築士会連合会名誉会長 (建築)	
同	非常勤	小嶋 勝衛	平成22年 4月1日	業務の助言等	日本大学非常勤講師 (都市計画)	
同	非常勤	嶋崎 尚子	平成21年 4月1日	業務の助言等	早稲田大学教授 (社会学、家族社会学)	
同	非常勤	下谷 和幸	平成22年 4月1日	業務の助言等	明治大学教授 (18世紀英文学)	
同	非常勤	正路 徹也	平成21年 4月1日	業務の助言等	東京大学名誉教授 (地球情報学)	
同	非常勤	園池 公毅	平成22年 4月1日	業務の助言等	早稲田大学教授 (植物生理学、光合成)	
同	非常勤	武田 弘	平成22年 4月1日	業務の助言等	東京大学名誉教授 (地球惑星科学、鉱物学、隕石学)	
同	非常勤	田中 功	平成22年 4月1日	業務の助言等	日本女子大学名誉教授 (図書館情報学)	

(平成23年3月31日現在)

役職	常勤・非常勤	氏名	就任 (重任) 年月日	担当職務	現職 (専門分野)	備考
評議員	非常勤	土家 典生	平成22年 4月1日	業務の助言等	上智大学教授 (英語学、言語学)	
同	非常勤	角皆 静男	平成22年 4月1日	業務の助言等	北海道大学名誉教授 (理学、化学、地球化学、海洋科学)	
同	非常勤	寺崎 誠	平成21年 4月1日	業務の助言等	東京大学名誉教授 (農学、水産学、生物海洋学)	
同	非常勤	羽鳥 昇兵	平成22年 4月1日	業務の助言等	読売新聞社社友 (日本古典芸能、生活評論)	
同	非常勤	春見 静子	平成22年 4月1日	業務の助言等	愛知淑徳大学教授 (社会福祉学、ケースワーク論、 障害者福祉論)	
同	非常勤	半田 真理子	平成22年 4月1日	業務の助言等	(財)都市緑化技術開発機構都市 緑化技術研究所所長 (環境計画、緑地計画、造園学)	
同	非常勤	樋口 広芳	平成21年 4月1日	業務の助言等	東京大学大学院教授 (理学、生物、生態)	
同	非常勤	久居 宣夫	平成22年 4月1日	業務の助言等	国立科学博物館名誉研究員 (動物生態学)	
同	非常勤	福田 正己	平成21年 4月1日	業務の助言等	福山市大学設置準備室特別研究員 (雪氷学、地球科学)	
同	非常勤	藤垣 裕子	平成22年 4月1日	業務の助言等	東京大学大学院教授 (科学技術社会論(STS)、科学計 量学)	
同	非常勤	藤村 貞夫	平成22年 4月1日	業務の助言等	東京大学名誉教授 (計測制御、電気電子)	
同	非常勤	松尾 政弘	平成22年 4月1日	業務の助言等	埼玉大学名誉教授 (機械工学)	
同	非常勤	松田 義幸	平成22年 4月1日	業務の助言等	学校法人尚美学園理事長 尚美学園大学学長 エンゼル財団理事 (生活文化論、生活文化史、レ ジャー社会学)	
同	非常勤	安田 寿明	平成22年 4月1日	業務の助言等	元東京電機大学教授 (工学、情報、情報科学基礎、情報 システム)	
同	非常勤	渡辺 雄一郎	平成22年 4月1日	業務の助言等	東京大学大学院教授 (生物学・分子生物学、農学・植物 病理学)	

2. 会議等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
(第 110 回) 平成 22 年 5 月 27 日	1. 平成 21 年度事業報告及び収支決算の承認に関する件 2. 平成 22 年度事業計画及び収支予算の一部変更に関する件 3. 諸規程の制定に関する件	1. 全会一致で承認・可決 2. 全会一致で可決 3. 全会一致で可決
(第 111 回) 平成 23 年 3 月 24 日 (書面理事会)	1. 評議員の選出に関する件 2. 役付役員の互選並びに報酬に関する件 3. 顧問の推薦に関する件 4. 平成 22 年度事業計画及び収支予算の一部変更に関する件 5. 基金の取り崩しに関する件 6. 平成 23 年度事業計画及び収支予算に関する件 7. 諸規程の制定及び改廃に関する件 8. 公益法人制度改革に伴う新法人の形態に関する件 9. 公益法人制度改革に伴う新法人の最初の評議員の選任方法に関する件 追加議案 議事録署名人の選任に関する件	1. 過半数の賛成をもって可決 2. 過半数の賛成をもって可決 3. 過半数の賛成をもって可決 4. 過半数の賛成をもって可決 5. 過半数の賛成をもって可決 6. 過半数の賛成をもって可決 7. 過半数の賛成をもって可決 8. 過半数の賛成をもって可決 9. 過半数の賛成をもって可決 追加議案 過半数の賛成をもって可決

(2) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
(第 101 回) 平成 22 年 5 月 27 日	1. 平成 21 年度事業報告及び収支決算の承認に関する件 2. 平成 22 年度事業計画及び収支予算の一部変更に関する件 3. 諸規程の制定に関する件	1. 全会一致で承認・可決 2. 全会一致で可決 3. 全会一致で可決

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
(第 102 回) 平成 23 年 3 月 24 日 (書面評議員会)	1. 理事の選任に関する件 2. 平成 22 年度事業計画及び収支予算の一部変更に関する件 3. 基金の取り崩しに関する件 4. 平成 23 年度事業計画及び収支予算に関する件 5. 諸規程の制定及び改廃に関する件 6. 公益法人制度改革に伴う新法人の形態に関する件 7. 公益法人制度改革に伴う新法人の最初の評議員の選任方法に関する件 追加議案 議事録署名人の選任に関する件	1. 過半数の賛成をもって可決 2. 過半数の賛成をもって可決 3. 過半数の賛成をもって可決 4. 過半数の賛成をもって可決 5. 過半数の賛成をもって可決 6. 過半数の賛成をもって可決 7. 過半数の賛成をもって可決 追加議案 過半数の賛成をもって可決

(3) 各種委員会

① 笹川科学研究助成事業委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
(第 41 回) 平成 22 年 6 月 9 日	平成 23 年度笹川科学研究助成について	承認
(第 42 回) 平成 22 年 11 月 10 日	1. 平成 23 年度笹川科学研究助成「学術研究部門」選考方針の策定について 2. 平成 23 年度笹川科学研究助成「実践研究部門」選考方針の策定について 3. 笹川科学研究奨励賞受賞研究発表会及び研究者交流会の実施について	1. 承認 2. 承認 3. 承認
(第 43 回) 平成 23 年 2 月 9 日	1. 平成 23 年度笹川科学研究助成選考結果について 2. 平成 23 年度海外発表促進助成の募集について	1. 確認 2. 承認

② 笹川科学研究助成領域別選考委員会

領 域	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
人文・社会系	平成 22 年 12 月 13 日	平成 23 年度笹川科学研究助成の申請 課題の選考について	承認
数物・工学系	平成 22 年 12 月 1 日	平成 23 年度笹川科学研究助成の選考 細則の策定について	
化学系	平成 22 年 11 月 26 日		
生物（A）系	平成 22 年 11 月 26 日		
生物（B）系	平成 22 年 12 月 1 日		
複合系	平成 22 年 11 月 30 日		
海洋・船舶科学系	平成 22 年 12 月 2 日		
実践系	平成 22 年 12 月 6 日	平成 23 年度笹川科学研究助成の申請 課題の選考について	
	平成 23 年 1 月 14 日		
人文・社会系	平成 23 年 2 月 28 日	1. 平成 23 年度笹川科学研究助成選考 結果について 2. 平成 22 年度笹川科学研究助成に係 る完了報告書の評価及び笹川科学研 究奨励賞の選出について	1. 承認
数物・工学系	平成 23 年 3 月 2 日		2. 承認
化学系	平成 23 年 2 月 28 日		
生物（A）系	平成 23 年 3 月 4 日		
生物（B）系	平成 23 年 3 月 1 日		
複合系	平成 23 年 3 月 7 日		
海洋・船舶科学系	平成 23 年 3 月 1 日		
実践系	平成 23 年 3 月 3 日		

③ モーターボート競走法制定 40 周年記念科学・文化振興事業委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 23 年 3 月 7 日	平成 23 年度「科学知識の普及・啓発」事業計画について	承認

④ 教育・研究図書有効活用プロジェクト推進委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
(第 18 回) 平成 22 年 5 月 20 日	今後のプロジェクトの発展について	確認
(第 19 回) 平成 22 年 12 月 3 日	今後のプロジェクトの発展について	確認

3. 許可、認可、承認、証明等に関する事項
該当なし

4. 契約に関する事項

契約年月日	契約相手方	契約の概要
平成 22 年 4 月 1 日	日本財団	2010 年度助成契約 「海洋・船舶科学研究助成」 「調査研究船を使用した海洋科学体験学習の開催」 「体感型実験装置群による巡回展の開催」 「科学振興のための研究助成」 「研究成果発表促進のための助成」 「教育・研究図書有効活用プロジェクトの実施」 「基盤整備」（海洋、公益）
同 上	(株)アイ・ティ・フロンティア	システム及びハードウェアに係る保守契約
同 上	(株)サクセス	会計ソフトウェア及び給与ソフトウェアに係る保守契約
同 上	社会福祉法人東京コロニー	Web サイト更新に係る業務契約
同 上	学校法人東海大学	「調査研究船を使用した海洋科学体験学習の開催」事業に係る委託契約
同 上	(株)凡人社、(株)ヤマタネ	教育・研究図書有効活用プロジェクトに係る業務委託契約（自動延長）
同 上	(株)倉業サービス	教育・研究図書有効活用プロジェクトに係る業務委託基本契約（自動延長）
同 上	日中経営コンサルタント(株)	翻訳業務に係る業務委託契約（自動延長）
同 上	ゴングウェル・サービス・インコーポレーテッド	翻訳業務の委託に係る覚書
同 上	南京大学	「華東地域笹川杯日本知識クイズ大会」の開催に係る覚書（自動延長）
同 上	兵庫教育大学原体験教育研究会	科学実験データベースの公開に係る業務委託契約
平成 22 年 4 月 6 日	(株)丹青社	「光」の体感型実験装置群の開発と製作に係る覚書
平成 22 年 4 月 7 日	中国青年報社、人民中国雑誌社	「笹川杯作文コンクール 2010－感知日本」の実施に係る協定書

契約年月日	契約相手方	契約の概要
平成 22 年 4 月 16 日	中国青年報社、人民中国雑誌社	「笹川杯作文コンクール」作品集の出版に係る覚書
平成 22 年 4 月 19 日	(株)パノラマ・ホテルズ・ワン東京ホテル事業所ANAインターコンチネンタルホテル東京	「笹川科学研究助成 平成 22 年度研究奨励の会」の運営等に係る業務委託契約
平成 22 年 4 月 20 日	(株)丹青社	「光」の体感型実験装置のパーツ製作に係る業務委託契約
同 上	吉林大学、黒龍江大学	「東北地域笹川杯日本知識クイズ大会 2010」の開催に係る覚書
同 上	貴州大学	「西南地域笹川杯日本知識クイズ大会 2010」の開催に係る覚書
平成 22 年 6 月 28 日	公認会計士篠原通夫事務所	監査契約（更新）
平成 22 年 7 月 31 日	東京海上日動火災保険(株)	国内旅行総合保険契約（更新）
平成 22 年 8 月 9 日	(株)丹青社	「光」の体感型実験装置群の製作に係る業務委託契約
平成 22 年 9 月 1 日	三井住友海上火災保険(株)	交通事故傷害保険契約（更新）
平成 22 年 9 月 9 日	(株)丹青社	「光」の体感型実験装置群の完成発表展示会の設営等に係る業務委託契約
平成 22 年 9 月 13 日	(財)日本水路協会	駿河湾及び富山湾の詳細海底地形データ作成に係る業務委託契約
平成 22 年 10 月 25 日	国立科学工芸博物館、国立自然科学博物館、国立台湾科学教育館	台湾における「台風」の体感型実験装置群による展示に係る覚書
平成 22 年 12 月 1 日	(株)丹青社	「光」の体感型実験装置群の保管に係る契約（平成 22 年 12 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）
平成 23 年 1 月 31 日	(株)丹青社	「光」の体感型実験装置群の製作に係る内容改善業務委託契約
平成 23 年 3 月 4 日	(株)パルス・ステーション	「台風」の体感型実験装置群の記録映像制作に係る契約

5. 寄付金に関する事項

該当なし

6. 主務官庁からの連絡事項等

連絡年月日	連絡事項等	履行状況
平成 22 年 9 月 3 日	第 52 回（平成 22 年度）教育・文化週間について	平成 22 年 9 月 9 日回答
平成 22 年 9 月 21 日	大臣等交代に伴う兼職状況調査について	平成 22 年 9 月 22 日回答
平成 22 年 12 月 3 日	特例民法法人における無報酬役員に対する謝金等の調査結果を踏まえた対応について	役員・管理部門のみ回覧、公文書として保存
同 上	平成 22 年度特例民法法人概況調査及び新しい公益法人制度への円滑な移行に関するアンケート	平成 22 年 12 月 15 日回答
平成 22 年 12 月 7 日	実地検査を実施	—
平成 22 年 12 月 14 日	最近の天下り・渡りの実態に関する予備的調査（第一弾）	平成 22 年 12 月 15 日回答
平成 22 年 12 月 27 日	実地検査の結果について（通知）	改善に向けて検討中
平成 23 年 1 月 26 日	平成 23 年度（第 52 回）科学技術週間について（依頼）	平成 23 年 2 月 15 日回答

7. 申請・届出等事項

年月日	内 容
平成 22 年 4 月 6 日	日本財団に平成 21 年度事業の完了報告書を提出した。 「海洋・船舶科学研究助成」事業 「調査研究船を使用した海洋科学体験研修の開催」事業 「科学振興のための研究助成」事業 「研究成果発表促進のための助成」事業
平成 22 年 4 月 7 日	港都税事務所に都民税（均等割）免除申請書を提出した。
平成 22 年 4 月 14 日	日本財団に平成 21 年度事業の完了報告書を提出した。 「基盤整備」事業
平成 22 年 4 月 15 日	日本財団に平成 21 年度事業の完了報告書を提出した。 「教育・研究図書有効活用プロジェクトの実施」事業
平成 22 年 4 月 22 日	文部科学省に役員異動に係る登記事項変更届を提出した。
平成 22 年 5 月 12 日	日本財団に平成 21 年度「体感型実験装置群による巡回展の開催」事業の完了報告書を提出した。
平成 22 年 6 月 9 日	モーターボート競走法制定 40 周年記念事業記念科学・文化振興基金に係る平成 21 年度事業報告書及び決算報告書を、同基金の拠出元関係諸団体に提出した。
平成 22 年 6 月 25 日	文部科学省に平成 21 年度事業報告書及び決算報告書を提出した。
平成 22 年 7 月 12 日	麻布税務署に平成 21 年度収支計算書を提出した。
平成 22 年 10 月 5 日	日本財団に平成 22 年度「海洋・船舶科学研究助成」事業、「調査研究船を使用した海洋科学体験学習の開催」事業、「体感型実験装置群による巡回展の開催」事業の進行報告書を提出した。
平成 22 年 10 月 6 日	日本財団に平成 22 年度「教育・研究図書有効活用プロジェクトの実施」事業の進行報告書を提出した。

年月日	内 容
平成 22 年 10 月 7 日	日本財団に平成 22 年度「基盤整備」事業（海洋、公益）の進行報告書を提出した。
平成 22 年 10 月 20 日	日本財団に平成 22 年度「科学振興のための研究助成」事業、「研究成果発表促進のための助成」事業の進行報告書を提出した。
平成 22 年 10 月 28 日	日本財団に平成 23 年度助成金の交付申請をした。 1) 「海洋・船舶科学研究助成」事業 2) 「体感型実験装置群による巡回展の開催」事業（海洋） 3) 「画期的な表現手法を用いた地球科学の理解推進」事業 4) 「基盤整備」事業（海洋） 5) 「科学振興のための研究助成と研究交流」事業 6) 「体感型実験装置群による巡回展の開催」事業（公益） 7) 「教育・研究図書有効活用プロジェクトの実施」事業 8) 「基盤整備」事業（公益）
平成 22 年 11 月 2 日	平成 22 年度「調査研究船を使用した海洋科学体験学習の開催」事業に係る共催及び後援団体へ事業完了報告書を提出した。
平成 22 年 11 月 8 日	文部科学省に日本財団に対する平成 23 年度助成金の交付申請に係る届出をした。
同 上	文部科学省に平成 22 年度事業計画書及び収支予算書の変更に係る届出をした。
平成 22 年 11 月 19 日	三田労働基準監督署に時間外労働及び休日労働に関する協定の届出をした。
平成 23 年 1 月 25 日	東京都港都税務所に償却資産申告書等を提出した。
同 上	麻布税務署並びに関係市区町村課税課に平成 22 年分の給与所得に係る源泉徴収票等の法定調書を提出した。
平成 23 年 2 月 28 日	日本財団に平成 22 年度「調査研究船を使用した海洋科学体験学習の開催」事業の完了報告書を提出した。
平成 23 年 3 月 10 日	日本財団に平成 23 年度助成金支払希望連絡書を提出した。 1) 「海洋・船舶科学研究助成」事業 2) 「体感型実験装置群による巡回展の開催」事業（海洋） 3) 「基盤整備」事業（海洋） 4) 「科学振興のための研究助成と研究交流」事業 5) 「体感型実験装置群による巡回展の開催」事業（公益） 6) 「教育・研究図書有効活用プロジェクトの実施」事業 7) 「基盤整備」事業（公益）
平成 23 年 3 月 22 日	三田労働基準監督署に時間外労働及び休日労働に関する協定の届出をした。
平成 23 年 3 月 29 日	文部科学省に平成 22 年度事業計画書及び収支予算書の変更に係る届出をした。

8. その他

内 容
<p>平成 21 年度「調査研究船を使用した海洋科学体験研修の開催」事業が、日本財団から受託した(株)リサーチ・アンド・ディベロプメントによる事業評価を受けた。</p> <p>調査時期：平成 22 年 7 月～10 月</p> <p>結 果：765 点/1000 点[Level II (750～850)・優秀な水準]</p>